

第 22 回「社会・意識調査データベース (SORD)」 ワークショップの開催

The 22nd Workshop of Social and Opinion Research Database Project (SORD)

社会・意識調査データベースプロジェクト 大國 充彦

札幌学院大学「社会・意識調査データベース」(SORD)作成プロジェクトでは、社会・意識調査に関するデータセット情報の収録・公開を行う一方、北海道に根ざした地域研究を収集・整理するデータアーカイブとして活動してきました。とりわけ重点的に取り組んできた、布施鉄治氏らの夕張調査(『地域産業変動と階級・階層——炭都夕張／労働者の生産・労働—生活史・誌』御茶の水書房、1982年)関連資料の整理作業は、ほぼ完了しつつあります。

過去2回のワークショップでは、夕張や英国南ウェールズ炭鉱地域の関係者をお呼びしてきました。今回は夕張以外の空知旧産炭地でアーキビストとして活動されてきた方々をお招きしました。赤平市の吉田勲氏には、赤平の炭鉱の歴史や現況についてご説明いただいた後、平成13年から平成16年にかけて行われた赤平市での炭鉱遺産保存活動についてお話しいただきました。美唄市の白戸仁康氏には、美唄市における三井・三菱両系列の炭鉱の歴史を両者の文化的な違いにも触れながらご説明いただき、さらに1970年代から始まる炭鉱資料の収集・保存、炭鉱遺構の活用の取り組みについてお話しいただきました。

本ワークショップの取り組みによって、道内のアーカイブ間のネットワーク作りに些かでも資することができれば幸いに存じます。

「空知産炭地の炭鉱資料の保存とアーカイブに関するワークショップ」 (プログラム)

- 13:00~13:05 代表挨拶 大國 充彦(札幌学院大学社会情報学部)
- 13:05~13:30 SORDからの報告 中澤 秀雄(千葉大学文学部(当時))
- 13:30~14:30 講演①「炭鉱(やま)の遺産・保存整備事業について」
吉田 勲氏(赤平市・炭鉱の歴史を保存・継承する市民会議元会長)
- 14:35~15:35 講演②「美唄市における炭鉱関連施設・資料等の保存について」
白戸 仁康氏(美唄市教育委員会委員長)
- 15:40~16:00 コメント 桑原 真人氏(札幌大学経済学部教授・元開拓記念館学芸員)
- 16:00~17:00 総括討論